

障がい者差別禁止条例に 当事者の声を反映して

共産党が市議会で提案



障がい者のみなさんの運動がみのり、福岡市で「障がい者差別禁止条例」をつくることに。

そのための市の会議がなんどもひらかれ、障害者のみなさんからは「障がい者への合理的配慮（※）を企業やお店にも義務づけてほしい」との声が出ましたが、市側はかたくなに条例の原案には盛りこもうとしていません。

企業やお店に障がい者への合理的配慮の義務づけを

日本共産党 福岡市議団



日本共産党の中山いくみ市議は、10月の福岡市議会（決算特別委員会総会）でこの問題を取りあげ、盛りこむように求めました。

また、中山市議は条例の原案に、すべての市民を対象とする「**何人（なんびと）も**合理的配慮を行う必要がある」という表現を盛りこむなど、障害者や関係団体の意見を反映させ、充実させるよう提案しました。

高島市長は「障害を理由とするさまざまな差別を解消していくことは重要と認識している」とのべるにとどまりました。

※「合理的配慮」って？

障がい者の人権を守るために行われる、過度の負担にならない範囲での最善の配慮のことです。たとえば、段差を解消するためにスロープを設置するなど（合理的配慮の提供）で、足の不自由な人や車いす利用者が障害のない人と同じように段差を越えられるようにしなければなりません。



聴覚障がい者 支援の充実を

福岡市は手話通訳派遣事業の範囲を資格取得の通学やペットの通院での利用を認めず、通院などのせまいものにかぎっ

ており、範囲を広げるよう求めました。

市は「対象項目の必要性や手話通訳者の数を見ながら検討する」と答弁しました。

また、手話言語条例（手話を「言語」として普及させるもの）については他市で広がっていることを紹介し、福岡市でもつくるように強く求めました。

市は「慎重に検討する」と消極的な答弁をしました。



中山
いくみ
団長（早良区）



倉元
達朗
幹事長（城南区）



星野
美恵子
市議（中央区）



ひえじま
俊和
市議（博多区）



熊谷
敦子
市議（西区）



綿貫
英彦
市議（東区）



堀内
徹夫
市議（南区）

知らないうちに切り捨て



福祉乗車証は障害者の地下鉄無料パス（回数制限なし）ですが、市はこれを廃止し、補助上限のある福祉乗車券への統合をきめました。

廃止までの3年間の経過措置の間についても、障害の程度の軽い人からとりあげたり、重度の人でも所得制限を持ちこんだり、約3000人への交付を切り捨てて大改悪を今年8月の交付分から強行しています。

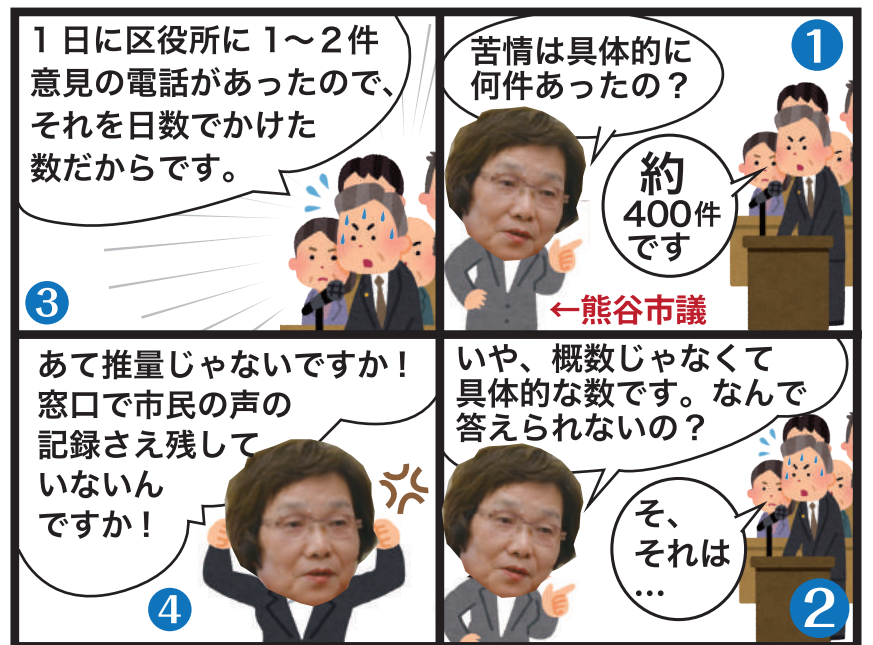
もともどし、バスなどにも広げよ

日本共産党 福岡市議団が 福岡市議会に質問しました

日本共産党の熊谷敦子市議が10月の市議会（決算特別委員会総会）でとりあげました。

市がこの改悪にあたって関係団体からまともな意見を聞いていないこと、さらに十分な周知もされず、知らないうちに切り捨てられたこと、苦情が区役所に殺到したにもかかわらず、窓口で市民の声の記録さえ残していないことがわかりました（右のイラスト参照）。

熊谷市議は、地下鉄無料パス制度を元に戻し、バスなどの他の交通手段にも拡充するよ



う求めました。高島市長は「公平公正にするために制度を統合した」「持続可能な制度になるようにする」として切り捨てを合理化しました。

医療的ケアが必要な子や障害を持つ子の就学前の保育や療育の場の保障を!

前むきの答弁ひきだす

中山市議は、人工呼吸器の使用やたんの吸引といった医療的ケアが必要な子どもの問題などを10月の市議会に取り上げました。

医療的ケア児や障害児の受け皿になっている通園施設はすでに空きがなく、施設不足です。

保育園はそもそも入園が困難な上に、「ケアが必要」という理由で入れません。

中山市議は「子どもたちにとって、成長著しいこの時期に適切な支援を逃せば、発達を取り戻すことはできない」と指摘。

通園施設の抜本的な整備・拡充、保育園への看護師の配置や保育士の加配等を行い、新年度から医療的ケアや支援が必要な子どもを一人残らず希望園で受け入れる手立てを取るよう要求しました。



医療的ケア児の受け入れについて、保健福祉局長は「国の新たなモデル事業の詳細がしめされ次第検討していく」と前向きな答弁をしました。